

# イネドロオイムシのチアメトキサム剤に対する 感受性が低下した地域でも、 シアントラニリプロール剤等の防除効果は高い

福島県農業総合センター 生産環境部 作物保護科

## 1 部門名

水稻－水稻－病虫害防除

## 2 担当者名

松木伸浩、山内富士男

## 3 要旨

近年、県中地域の一部においてチアメトキサム剤を箱施用した水田で、イネドロオイムシの多発事例が確認されている。当該地域で防除試験を行ったところ、シアントラニリプロール剤の箱施用、エチプロール剤、クロチアニジン剤の散布は、本種に対する高い防除効果が認められた。

- (1) 試験地のイネドロオイムシ個体群は、チアメトキサム剤に対する感受性が低下していると考えられた (図1)。
- (2) 同個体群に対し、シアントラニリプロール剤の箱施用、エチプロール剤、クロチアニジン剤の散布は高い防除効果が認められた (図1、2)。

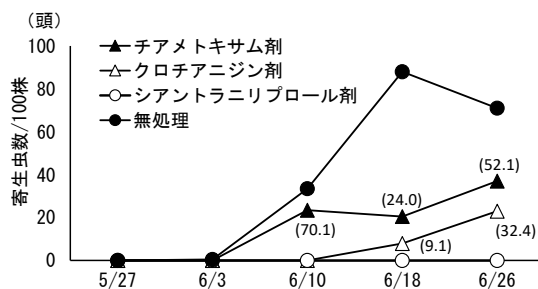


図1 イネドロオイムシ寄生虫数の推移 (育苗箱施用剤)

試験地：須賀川市長沼、チアメトキサム剤：デジタルコラトップアクトラ箱粒剤、クロチアニジン剤：ツイインターボ箱粒剤08、シアントラニリプロール剤：スタウトバディート箱粒剤、薬剤処理：移植当日 (5/13) 50g/箱処理、調査：100株2カ所、虫数：幼虫と蛹の合計値、( )内の数値：対無処理比

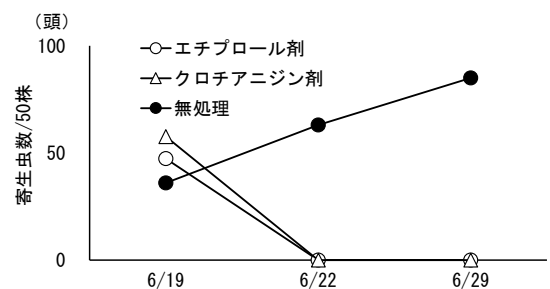


図2 イネドロオイムシ寄生虫数の推移 (散布剤)

試験地：須賀川市長沼、エチプロール剤：キラップフロアブル2,000倍、クロチアニジン剤：ダントツ水溶剤4,000倍、散布日：6/20、散布量：70L/10a 調査：50株3カ所、虫数：幼虫と蛹の合計値

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27～令和2年度
- (2) 研究課題名 新奇・難防除病虫害に対する防除技術の開発

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 小野 亨・大江高穂・横堀亜弥・川端泉穂, 宮城県におけるイネドロオイムシの育苗箱施用殺虫剤に対する薬剤感受性, 北日本病虫研報, 71, p.206, 2020